

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 んふ清流文化プラザ地歌舞伎開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局文化創造課文化振興係 電話番号：058-272-1111(内 2458)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 68,771 千円 (前年度予算額：70,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	70,000	19,446	0	0	0	0	0	0	50,554
要求額	68,771	3,944	0	0	0	0	0	0	64,827
決定額	60,000	3,944	0	0	0	0	0	0	56,056

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

2015年9月にリニューアルオープンした「ぎふ清流文化プラザ」では、県民参加型の文化発信拠点を目指し、伝統文化をはじめ幅広く文化振興事業を展開している。中でも伝統文化の面では、全国有数の地歌舞伎保存団体と、昔ながらの芝居小屋が数多く残る“地歌舞伎大国”として魅力発信に取り組んでおり、2018年10月には、パリで開催された「ジャポニスム2018」等に出演し、海外において高い評価を得られたところ。

その効果をさらに発展させるため、東京オリンピック・パラリンピック開催までの期間中、ぎふ清流文化プラザにおいて、県下の地歌舞伎保存団体による公演を連続展開していく。

当初の計画では、2020年1月から7月に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、2020年3月から7月の公演が延期となっており、2021年度(令和3年度)は延期となった公演を4月から8月にかけて9回実施する。

(2) 事業内容

県内各地で地歌舞伎の保存活動の機運が高まりつつある中で、各保存会の活動を、地元だけでなく、より多くの方々にその魅力に触れていただけるよ

う、岐阜県の文化発信拠点である「ぎふ清流文化プラザ」を舞台に、「地歌舞伎公演」を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担とする。

ただし、一部経費については、国費を活用する。

補助金名：先進的文化芸術創造活用拠点形成事業（文化庁所管）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	68,771	ぎふ清流文化プラザ地歌舞伎開催事業
合計	68,771	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

事業評価調査（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ぎふ清流文化プラザにおいて、県内各地の地歌舞伎を上演することにより、地歌舞伎の魅力を広く発信するとともに、多くの県民等に鑑賞機会を提供し、文化芸術の振興を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
公演等の満足度 (アンケートで「満足」と回答した割合)	—	—	—	—	80% (R3)	100% (R1)

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

令和元年度に実施した地歌舞伎勢揃い公演の実績

開催日	出演団体・演目数	来場者数
2020年1月19日（日）	3団体3演目	540名
2020年2月15日（土）	2団体2演目	505名

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

ぎふ清流文化プラザでの定期的な地歌舞伎公演により、これまで地歌舞伎の鑑賞機会がなかった層や県外の方々にもその魅力を発信し、評価を得ている。また、各出演団体が地元を離れて公演機会を得ることにより、活動が活性化し、伝統文化の継承意欲が高まっている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	県有文化施設において、県民が地元を離れて地歌舞伎を演じる機会や、歴史的・文化的価値のある質の高い文化に触れる機会を創出することは、地域の伝統文化の保存・継承はもとより、新たな文化の創造や発信・振興にもつながり、本事業の必要性は極めて高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	本事業は、県有文化施設への集客とともに、地歌舞伎の魅力発信や伝統芸能への理解を深めることに寄与しており、文化振興策として有効である。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	ぎふ清流文化プラザの指定管理者として、舞台公演の運営ノウハウや地歌舞伎保存団体等との関係を有する（公財）岐阜県教育文化財団に委託することにより、効率化を図っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 地歌舞伎ファンの拡大や新たな観客獲得のため、各種サービスの充実や広報・PR手法などを検討・改善していく必要がある。

(次年度の方向性)

・ 地歌舞伎保存団体の活動の活性化や地歌舞伎の魅力を県内外に広く発信するため、ぎふ清流文化プラザにおいて、地歌舞伎公演を継続的に開催する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	